

行ったところ、うまくいかなかった点を振り返りの時間を持った。この「振り返りができる」ことも、探究型学習の大事なポイントの1つとなる。

そして、最後の講義では学びの中心テーマを確認して終えた。

## 6) 追記

3時間と長時間のワークショップであるため、間に15分の休憩を設けた。

この間、「空き缶分別箱」のダンボールで作った試作品や、「ヒット商品はこうして生まれた！」<sup>(8)</sup>に出ているハリナックス、たたみジョーズ等を用意して実際に触ってもらった。

また、想定外のことであったが、授業終了後、「自分も特許出願してみたい」というお子さんが複数出てきた。調べてみると、山崎幸作弁理士が主催する「こども発明プロジェクト」<sup>(9)</sup>があることを知った。「こども発明プロジェクト」の協力弁理士である大倉宏一郎弁理士及び玉利房枝弁理士のお陰で、2名のお子さんの発明については出願を終え、現在、もう一組（共同発明）について山崎幸作弁理士により出願準備中である<sup>(10)</sup>。

## 4. まとめ

私にとって、小学生対象で、自分達の発明を考えてプレゼンテーションを行う探究型のワークショップは初めてであった。このワークショップを通して、私自身、小学生でも体験を通して学ぶことにより、実用的な発明を考える力があることを実感した。

グローバル人材の育成ということで、「探究型学習」が注目されているが、「探究型学習」の中に知財教育を取り入れていける可能性は十分にあるのではないかと考える。

実際、国際バカロレア教育を行っている国立大学附属中学校等からも知財教育に関心を寄せて頂いている。今後、子ども達に探究心を満たすことができる知財教育の啓発活動を行っていくことができれば幸いである。

最後に、このようなワークショップの場を提供して下さい、今回の共著者として、前半部分（1:「探究型学習」と「キャリア教育」の連携の意義）の執筆を快く引き受けて下さった、一般社団法人「こたえのない学校」代表の藤原さと様、並びにスタッフの皆様感謝をこめて終わりたいと思います。

## 注

(1) 今回のワークショップは、関東支部知財教育支援委員会の講師派遣ではない。

(2) 「探究型教育」という言い方をされることもあるが、ここでは、「探究型学習」に統一。

(3) 国際バカロレア (IB) 国際バカロレア機構 (本部ジュネーブ) が提供する国際的な教育プログラム。国際バカロレア (IB: International Baccalaureate) は、1968年、チャレンジに満ちた総合的な教育プログラムとして、世界の複雑さを理解して、そのことに対処できる生徒を育成し、生徒に対し、未来へ責任ある行動をとるための態度とスキルを身に付けさせるとともに、国際的に通用する大学入学資格 (国際バカロレア資格) を与え、大学進学へのルートを確保することを目的として設置。現在、認定校に対する共通カリキュラムの作成や、世界共通の国際バカロレア試験、国際バカロレア資格の授与等を実施。 [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kokusai/ib/1307998.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/ib/1307998.htm)

(4) 一部日本語による国際バカロレアの教育プログラムの開発・導入等を通じ、国際バカロレア認定校等の大幅な増加を目指す (2018年までに200校。) 平成25年6月14日閣議決定

(5) 文部科学省 HP [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/sougou.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/sougou.htm)

(6) “一貫した国際教育に向けて” ©International Baccalaureate Organization 2014 P.17

(7) アメリカの教育哲学者であるジョン・デューイ (1859~1952) の提唱する、思考や探究を含む「経験」の原理、またロシアの心理学者であるレフ・ヴィゴツキー (1896~1934) の最近接発達領域 (Zone of Proximal Development) などによる、社会的構成主義的な教育観は多くの探究型学習に取り入れられている。

(8) 日本弁理士会発行「ヒット商品はこうして生まれた！」

(9) 「こども発明プロジェクト」 子どもに出願という体験をさせてあげるとい趣旨で、無料で出願支援する取り組みを行う。 <http://yamazaki-ip.com/cips/>

(10) ①特願 2016-76968 発明の名称「物干し装置」②特願 2016-74940 発明の名称「魚の骨の分離補助具」

(原稿受領 2016. 1. 26)